



森ボラ 通信

第81号 2009年2月20日発行
NPO法人北海道森林ボランティア協会
URL <http://www.geocities.jp/hokkaidoforest/>
札幌市中央区南2条西2丁目金市館ビル8F
Tel:241-8155 : Fax:241-8308
E-mail : hshinrinv2002@nifty.com

■ トピックス

◆ ヒグマの生態と安全対策(1月19日)

(講師:間野 勉氏・北海道環境科学研究センター主任研究員)

ヒグマについては、北海道に住んで、特に我々のように森に入り活動する機会の多い者にとっては常に気になる存在です。今回のセミナーでは北大の学生時代には「北大ヒグマ研究グループ」で活動され、現在は北海道環境科学研究センターでヒグマに関わる調査・研究をされている間野 勉氏にお願いして「ヒグマの生態と安全対策」に絞ってお話をお願いしました。

日本人が昔から「クマ」と言っている「ツキノワグマ」はヒマラヤから東南アジアに生息する、これに対して北海道に生息する「ヒグマ」の仲間はユーラシア大陸から北米大陸にかけて広く生息していたが、西ヨーロッパや米国では一部を除き絶滅して(させて)しまい、現在生息している地域は非常に限られ、20世紀に入り欧米社会において保護政策の対象となってきた。しかも、北海道の『ヒグマ』は人口密度の高い地域で生息している稀有な存在であり、北海道においては近年まで狩猟対象となってきたが最近では「ヒグマ」の存続を考慮した活動が進められている。

「ヒグマ」の特性

- ヒグマの行動圏は狭い(雌の行動範囲は半径数 km と非常に狭い)
- 北海道の森林の豊かな多様性と生産性はヒグマが「出稼ぎ」しなくてもいい状況をもたらしている。

次に、「ヒグマ」の特性についてこれまでの調査・体験談を通してのお話。

ヒグマの痕跡は、・あしあと(足跡) ・たべあと(食痕) ・おとしもの(フン)/毛(被毛)や通り

跡があり、**足跡の特徴**としては、

- ・ 前足、後足とも指が五本ある。
- ・ 通常は指の先に爪痕が残る。
- ・ 前足の前に後足の足跡がつく(並足で歩いた場合)。
- ・ 前掌幅 13cm 以上はオスの可能性が高い。

これらの情報は山に入った際にヒグマの痕跡かどうかの判断に役立ちます。また、ヒグマの落し物についても多くの情報を頂きました。

但し、「ヒグマ」は非常に賢い動物であり、



- ① 人間との接触は出来るだけ避けようと行動している。
- ② 学習能力が高く、特に一旦自分の物になった食料についての執着心は強い。
- ③ 一度人間の生活エリアでの美味しさを味わってしまうと繰り返し人間の生活エリアに入ってくる。

さらに、人間への被害状況を見るとハンターの被害が一番多く、次いで出会い頭で単独行動での被害が殆んどである。従って、被害に遭わない為には、多人数で音を出しながら行動する事が肝要である。

但し、ヒグマによる人身被害の発生頻度は、死傷者数1.8人/年であり、交通事故は勿論スズメバチによる人身被害よりも遙に少ない事が強調された。今後、この狭い北海道というエリアで人間とヒグマが共存を続けて行く為には、北海道に和人が入ってくる前から、アイヌの人々はヒグマに対して

- ヒグマをキムンカムイ(良いクマ・山の神)として畏敬。
- 謙虚な姿勢で自然に臨む。
- 人間を襲ったり被害を及ぼす問題となるクマはウエンカムイ(悪いクマ)として区別。

- 個体を特定した管理活動の実施。

と考へ、問題グマを作らないための人間自身の自制(予防活動)が重要性であることを認識し行動していたことは、今日の私共の考へ・行動にも非常に参考になる。

最後に、北海道におけるヒグマの管理方法の方向性としては、

- 駆除によって個体数を減らせばよしとする考へを改め、人間とヒグマの適切な関係を確立することで、問題グマの個体を減らすことが重要。
- 科学的に明らかになった「すべきこと」を実行する体制の確立が最大の課題。

というお話でした。

終了後、質疑応答では多くの質問、疑問が出され、この後の新年会まで持ち込まれ「ヒグマ」の話で盛り上がりました。(道新野生生物基金発行の雑誌『モーリー』No.13でヒグマ特集あり)(記、荻田)

◆ 活動報告・澄川環境林除伐・参加者13名

今年も雪をかき分けての除伐が始まりました。活動地南西端で一見して放置された二次林ですが良く見るとミズナラ、シラカンバ、シナ、イタヤカエデ、クリ、ドロノキ、エゾヤマザクラなどの樹種が豊富です。

樹名板をつける話が市山さんから提案されていますがこの一角に遊歩道を延ばして樹木園的な感じにサークルを作って子供たちを呼んだら楽しそうです。ご意見お寄せください。

ホダ木と薪になりそうな部分は1mとし枝条は2mに切り捨てとしました。

* 活動地変更案内が不行き届きで3名がアイケンの森にむかってしまい誠に遺憾でした。

先週NHKでニコルさんが黒姫山で私たちと全く同じ除伐方法で巨木の森を目指して活動しているのが放映され心強く思いました。株立ちの片方を切って薪などにし一本を残し巨木を目指す里山活動です。“私は年ですからその巨木を見ることは出来ないが”と言っているところまで私たちは共感します。(記、酒井)



■ 今月の幹事会

出席者：市山・荻田・酒井・佐野・杉本・高野・津金・西野・棟方・山中・和田

オブザーバー:佐坂

連絡事項

- ① 2月のセミナーは2月28日(土)に変更となりました。ご注意ください。会員・矢澤さんの「ネパール・ヒマラヤトレッキング報告」です。
- ② 3月のセミナーは会場を変更しました。1月31日現在の参加者数は15名です。会場を間違えないようご注意ください。また、13:00には開始されます遅れないようお願いします。
- ③ 4月から21年度のリンゴ園支援が開始されます。応援をお願いします。
- ④ 新会員紹介 (1月入会)
松田 彊さん：南区川沿・1941年生・男
顧問として要請しておりましたが、会員として現地で一緒に活動する事になりました。従って、会員としても登録しました。

■ おしらせ

◆ 3月のセミナーは救命・養成講習

○札幌市消防局による「普通救命講習Ⅱ」を受講します。会場が変更されています、間違いのない様をお願いします。受講時間は4時間を要します。開始時間もいつものセミナーより30分早く、13:00より開始しますので遅れないようご注意ください。受講希望者は活動参加申込書で申込み下さい。事前に参加名簿を作成して申請します、多数の受講をお待ちしております。

日時：平成21年3月28日(土)13:00～17:00(集合:12:30)

会場：リンケージプラザ2F・第2研修室(中央区北1・西9旧市立病院)

駐車は出来ません。

◆ 活動報告・2月5日(水)

「たぬき」か「アライグマ??」の痕跡

澄川活動地では、源流を中心にして深雪の上になにやら、得体の分からない足跡が無数に見られます。

夏場は「たぬきの糞塚」や「きつねの巣穴」が観察されていましたが、この足跡からはきつねではない事が明らか。

水辺の側壁には巣穴らしきものも散見。

どうも「アライグマ」らしいです。しばらくは観察する事にしています。

(記、事務局)



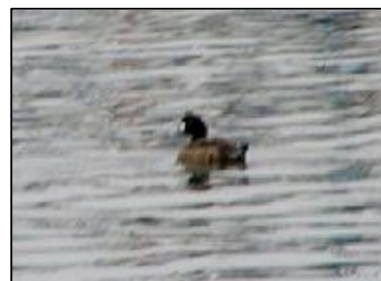
活動日	行 事	参加人数	活動内容
2月14日(土)	アイケンの森	10名	除伐
2月13日(金)	アイケンの森	12名	除伐・調査
2月10日(火)	木工	12名	自由製作
2月9日(月)	幹事会	11名	
2月5日(木)	澄川	13名	除伐
1月30日(金)	木工	13名	自由製作
1月29日(木)	澄川	22名	育林調査・除伐
1月22日(木)	澄川	16名	除伐
1月19日(月)	セミナー・例会・新年会	27名	セミナー・ヒグマの生態

■ ひとこま

シリーズ 鳥

スズガモ (No. 87)

2008年度の当協会の忘年会は登別のカルルス温泉でした。12月10日でしたが札幌の初雪はすっかり消えていたし、現地までの道筋も雪はありませんでした。僅かに樽前山がかすかに雪化粧をしている程度でした。途中往路復路ともに苫小牧の漁港市場に昼食のために立ち寄りしました。往路は見るだけ、復路は買い物となりました。復路はバスを海側に止めてくれましたので降車してすぐ海面を覗きにゆきました。カモメに混じって小型のカモが数羽水面に憩っていました。またキンクロハジロだろうと思いましたが、念のために撮影しました。距離がありましたので、ズームで引き付けての撮影でさらに帰宅してから画像処理で拡大しての映像ですが、その限りの判断でスズガモと判定しました。嘴の根本に白をあしらっているのが決め手です。



スズガモは潜水採餌をします。潜る深さはさほどでもないようです。貝類を丸呑みにして胃袋の中で砕くといわれています。装いは渋い汚褐色で地味であります。接近しなければキンクロハジロとの区別が出来にくいように感じました。周りに漁船がびっしり係留してある苫小牧漁港の中で憩っているくらいですから道南の海岸部では普通に見られるだろうと思いました。

忘年会もこの会で7度目となりました。定山溪温泉2回、洞爺湖1回、積丹1回、登別温泉1回、南幌温泉1回そして今回となります。元気高齢者ばかりながら消費するアルコールの量はいつもながら宿の人達があきれられる程です。

宿の近くにそこそこの樹高の1本杉がありました。カルルスあたりは標高350mで移入樹種であるスギにとっては厳しい環境だと思うのですが、温泉で地熱が高いのでしょうかね、元気で成長しているように見受けました。札幌円山動物園前のスギ木立は結構な大木に成長しております。函館から札幌にかけて国道沿線で見えるだけでもしばしばスギに出会います。内地から持ち込まれた望郷樹です。それらがそこそこ成長しております。温暖化に向けて北海道での植樹にスギを植えることも面白いと思う次第であります。成長が遅くて年輪幅が狭い方が建築材料としては価値が高いのでエゾマツ、トドマツの郷土樹よりも林業的には面白くなると思っています。* 詳細はHPで。(記、高野)